URL www.the-miyanichi.co.jp
MAIL m-style@the-miyanichi.co.jp

Mスタ新聞
5/29(日)
第5日曜日限定発行

震災被災者を激励

県民メッセージ携え宮城訪問

宮崎学園短大2年・池田晃也さん

東日本大震災の被災者を勇気づけようと、宮崎学園短大2年の池田晃也さん(19)が県民から集めた応援メッセージ約1300人分を宮城県に届けた。宮崎に戻った今は活動をレポートにつづり、同じボランティア志望の若者らにアドバイスしている。同時に「夏にまた行きたい。現地で役に立てるアイデアがあれば教えてほしい」と広く呼び掛けている。

貴重な経験報告したい

「口蹄疫、新燃岳噴火で宮崎県は全国から多くの義援金や応援のメッセージをもらった。今度は宮崎に住む自分が役立つ番だ」という思いに駆られ、被災地に向かうことを決めた。「県民から激励のメッセージを集めたらどうだろうと思いついたんです。さりげない言葉でも、前向きな気持ちになるので」

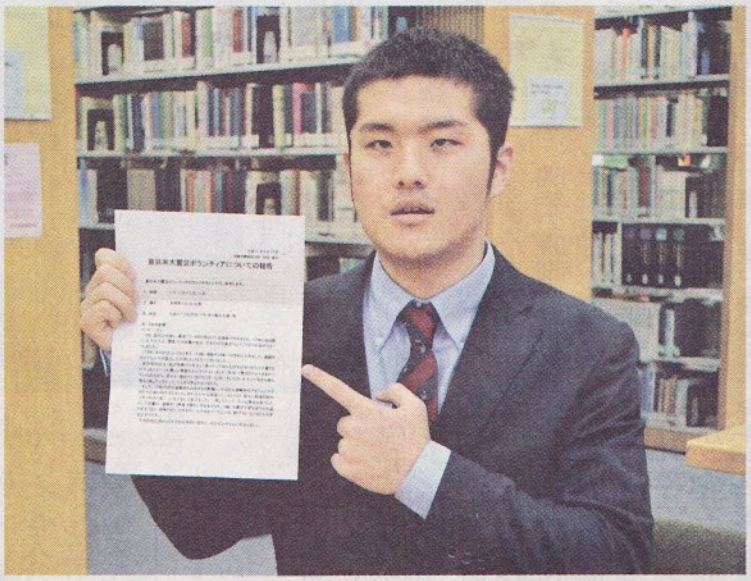
宮崎市で4月29日にあった宮崎国際ストリート音楽祭で、恐る恐る小学生から80代まで来場者に声を掛けた。思い思いの言葉を付せんに書いてもらい、模造紙にのり付けした。「遠くに住むけど、わたしたちは仲間」「ひとつにつながっている」「おれたちの力で日本を復興しよう」

道行く人のほとんどが快く応じてくれた。声を掛け続けながら、自分が救われるような思いがした。「震災以降、原発のニュースなど、気持ちがふさぎ込むような暗い話題が続く中、身近で人の温かみを感じられてほっとした」。母校の宮崎学園中高や宮崎公立大、南九州大にも呼び掛けた。

「みんなの気持ちがこもっていて、ずっしり重くて運ぶのが大変だった」と言うほどになった模造紙の束を抱え、宮城県に滞在したのは今月11～13日。避難所に置き場がなかったため、石巻市役所に預けた。近く市ホームページ上で掲載される。「感想を直接聞けなかったのは残念だが、気持ちは伝わったはず」

その足でがれき撤去作業にも加わった。50、60代の年配のボランティアが思いのほか多かったという。「この悲惨な状況を、若い人たちがしっかり目に焼き付けて、将来の復興につなげてほしい」。現地で最も心に響いた言葉だ。

「僕らのような若い世代こそ、積極的に支援活動に関わるべきだと痛感した」と池田さん。今回の経験を報告書にまとめたのもそんな思いがあったから。「被災地の今を、僕と同年代の若者に広く伝えたい。これがきっかけでボランティアに参加したいという人の輪が広がるとうれしい」。報告書は県内全ての高校、大学、市町村役場に郵送することにしている。



被災地での活動報告書を手にする池田さん。「多くの県民に読んでもらいたい」と話している